

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

1日

先勝 井

旧4月4日

木曜

妙法蓮華経常不輕菩薩品第二十

とくぜ ろつこんしょうじょうい

きょうぞうじゅみょう

得是六根清浄已

更増壽命

「六根清浄を得、さらに壽命が増した」

常不輕菩薩は一切の人々を礼拝し、迫害も堪え忍んだ報いとして、法華経に出会い仏さまの眞実の教えを聞き、六根清浄となりました。

そして更に、人々を教え導いたその報いとして壽命も増したと説かれています。

先ずは相手を敬う気持ちを養い、清浄な六根で相手の境遇を慮り、その上で教えを説けば迫害していた相手も導くことができるということです。教え導く順序が大切なことを物語っています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

2日

友引 鬼

旧4月5日

金曜

妙法蓮華経不輕菩薩品第二十

だい

じん

ずう

りき

大神通力

「一切の迷いを除く力」

「神通力」とは超能力のようなものではなく、一切の迷いを除く力のことです。

心に迷いがなくなつてこそ、どのような境遇に置かれても自在に生きることができるのです。

いつか自分も仏に成れると信じ、自己を磨き、他者に施す菩薩の道をひたすらに進み、慈悲心が具わった後に、神通力が得られるのです。

迫害されても自分が信じた道をたゆまずに進む力が「大神通力」なのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

3日

憲法記念日

先負 柳

旧4月6日

土曜

妙法蓮華経不輕菩薩品第二十

ぎよう

せつ

べん

りき

楽説弁力

「喜び望んで教えを説く力」

「楽説弁力」とは、喜び望んで教えを説く力。

常に聴衆が受け入れてくれる場面で教えを説くことができるとは限りません。

時には敵対する考えを持つ人の前で教えを説かなければならないこともあるでしょう。

場合によっては、邪魔が入ったり、迫害されたりするかもしれません。

どのような境遇においても喜んで説き、満足する内容を伝えるには確固たる信念が必要です。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

4日

みどりの日

仏滅 星

旧4月7日

日曜

妙法蓮華経不軽菩薩品第二十

だい

ぜん

じゃく

りき

大善寂力

「心が動かないこと」

「寂」とは、動かないということ。

賄賂・パワハラ・暴力・ほめ殺しなど、生きてい
れば信念を曲げざるを得ないような誘惑やプレ
ッシャーに遭遇することがあるでしょう。

人から何を言われても、ひどい目に遭わされて
も、心を動かさないのが「寂」です。

しかし弱点を突かれれば、人はコロッと動いて
しまうものです。

欠点がなく完全無欠で動かないのが「善」です。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

5日

こどもの日

大安 張

旧5月8日

月曜

妙法蓮華経不輕菩薩品第二十

とく ち に せん のく ぶつ
得値二千億仏

「二千億もの仏のもとで修行をした」

常不輕菩薩は千万億の衆生を悟りに導き、命尽きた後に二千億もの仏のもとで修行しました。人々を教え導いた後に滅度し、仏に仕えて学び、生まれ変わりを繰り返してきたのです。人を教えて自分に足りないものに気づいたならば、仏に仕え自らを磨く修行を積み、それを繰り返し、深い悟りに近づいて行くのです。私たちも少しでも学び人前で話をする、さらなる学びが必要なことに気づくはずです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

6日

赤口 翼

旧4月9日

火曜

妙法蓮華経不輕菩薩品第二十

にち がつ とう みよう

日月燈明

「仏法で世界を照らす仏」

『序品』には、涅槃のたびに同じ日月燈明仏という名前の仏が二万出現し、最後に登場する二万人目の日月燈明仏が法華経を説いたとあります。

『常不輕菩薩品』では、常不輕菩薩が仕えた二千萬の仏の名前も日月燈明だと説かれています。

「日月燈明」という名前は、天にあっては「日・月」、地においては「燈明」のように仏法で世界を照らすことに由来し、皆同じ名前なのは、その悟られた真実がすべて同一であることを示しています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

7

日

先勝 軫

旧4月10日

水曜

妙法蓮華経不軽菩薩品第二十

うん

じ

ざい

とう

おう

雲自在燈王

「雲のように自在に法を説き、世界を照らす仏」

雲のように自在に法を説き、世界を照らす力を
持つ仏。

日月燈明仏と同じ仏だという説もあります。

常不軽菩薩が二千億の日月燈明仏に仕えた後
に、二千億の雲自在燈王仏に仕え、法華経の修行
を積み六根清浄を得た説かれています。

法華経は世の中を照らす燈明に喩えられ、二千
億もの仏が皆同じ教えを説き続けてきたことを
物語っています。

妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十

臨欲終時。於虛空中。具聞威音王佛。先所說法華經。二十千萬億偈。悉能受持。即得如上。眼根清淨。耳鼻舌身意根清淨。得是六根清淨已。更增壽命。二百万億。那由佗歲。広為人說。是法華經。於時增上慢四衆。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。輕賤是人。為作不輕名者。見其得大神通力。樂說辯力。大善寂力。聞其所說。皆信伏隨從。是菩薩。復化千万億衆。令住阿耨多羅三藐三菩提。命終之後。得值二千億佛。皆号日月燈明。於其法中。說是法華經。以是因緣。復值二千億佛。同号雲自在燈王。於此諸佛法中。受持誦誦。為諸四衆。說此經典故。得是常眼清淨。耳鼻舌身意。諸根清淨。於四衆中說法。心無所畏。得大勢。是常不輕菩薩摩訶薩。供養如是。若干諸佛。恭敬尊重讚歎。種諸善根。於後復值。千万億佛。亦於諸佛法中。說是經典。功德成就。當得作佛。得大勢。於意云何。爾時常不輕菩薩。豈異人乎。則我身是。若我於宿世。不受持誦誦此經。為佗人說者。不能疾得。阿耨多羅三藐三菩提。我於先佛所。受持誦誦此經。為人說故。疾得阿耨多羅三藐三菩

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

8

日

友引 角

旧4月11日

木曜

妙法蓮華經不輕菩薩品第二十

そく が しん ぜ

則我身是

「常不輕菩薩がお釈迦さまの過去世の姿である」

お釈迦さまは常不輕菩薩がご自分の過去世の姿であるとお告げになりました。

過去世において多くの人を導き、生まれ変わりを繰り返し多くの仏に仕え修行をしてきたからこそ、現世において仏になることができたのだとお説きになりました。

但行礼拝の菩薩行と法華經弘通が成仏の道であり、その道を真つすぐに進んできたから悟りを得ることができたのだと証明されたのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

9日

先負 亢

旧4月12日

金曜

妙法蓮華経不輕菩薩品第二十

ひつ

ぜ

ざ

い

畢是罪已

「罪を償い終わり法華経に救われる」

お釈迦さまの過去世の姿である常不輕菩薩を迫害した増上慢の比丘たちは、その報いとして二百億劫という長きにわたり仏に会うことができず、無間地獄に堕ちていました。

しかしその罪を償い終わり、常不輕菩薩の教えを受けることができたのです。

法華経を謗るという形で縁を持ったからには、いつか必ず救いを得ることができるといいう「逆縁下種」という教えです。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

10日

仏滅 氏

旧4月13日

土曜

妙法蓮華經不輕菩薩品第二十

こん

し

え

ちゅう

今此会中

「今ここにいる聴衆が過去世の増上慢の比丘たち」

過去世にて常不輕菩薩を迫害した増上慢の比丘たちとは、今ここにいる聴衆の菩薩や比丘や優婆塞であるとお釈迦さまは説かれました。

過去世に罪を犯した「逆縁」によって、ようやく真実の教えに出会うことができたのです。

日蓮聖人は前世の重罪を償うため現世で迫害に遭うのは有難いことだととらえました。

法華經弘通は法難にも遭いますが、滅罪によって墮地獄を免れることにもつながるのです。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

11日

大安 房

旧4月14日

日曜

妙法蓮華經不輕菩薩品第二十

けい じゃく お ほう

計著於法

「これで十分だと決めてしまう執着」

「計」は、もうこの辺でよいだろうと自分の考えで勝手に決めること。

独断で決めてしまい、改めようとしないうところから生まれるのが執着です。

仏さまの教えを真剣に学ぶなら、ひと通り解つたと勝手に判断して済ませるのではなく、繰り返しさらに深く学部ことが肝要です。

もうこれで十分だと勝手に決めてしまつては、永遠に仏に成ることはできません。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

赤口 心

旧4月15日

12日 月曜

妙法蓮華經不輕菩薩品第二十

ございひつち

其罪畢已

「常不輕菩薩は過去世の罪を償い終えた」

「其の罪」とは常不輕菩薩の罪です。

常不輕菩薩もまた過去世において、正しい教えを
謗る罪を犯した報いとして、増上慢の比丘たちか
ら迫害されたのした。

しかし、石を投げつけられながらも但行礼拝の
行を積んできた功德によって償いを終えて、法華
經を聞き、六根清浄となることができたのです。
日蓮聖人も法難に遭うのは、法華經弘教によって
滅罪をしているという認識を持っていました。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

13日

先勝 尾

旧4月16日

火曜

妙法蓮華經不輕菩薩品第二十

とくもんしきよう

ろっこんしょうじよう

得聞此經

六根清淨

じんずうりきこ

ぞうやくじゆみよう

神通力故

增益壽命

「法華經を聞き六根清淨となる」

過去世の罪を償い終り、法華經を聞くことができれば、六根が清淨となり心に迷いがなくなり、壽命が延び、広く教えを説くことができます。

この文は水行をする際に唱える「水行肝文」に用いられ、水行の目的と願旨を法華經中より撰出した要文です。

古来、水には靈力があり身心の垢穢を払うと信じられ、六根清淨の方法として水行は古くから行われて来ました。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

14日

友引 箕

旧4月17日

水曜

妙法蓮華経不輕菩薩品第二十

い ぜ い ん ね ん

以是因縁

ち む し ゅ ぶ つ

値無数仏

「この因縁のおかげで、多くの仏に会う」

仏教においては、何事にも偶然は認めず、すべてを必然と考えます。

仏さまの眼から見れば、全ての事象は成るべくして成り、在るべくして在ることがわかるのです。

親子の縁、夫婦の円、師弟の縁、みな前からの縁があり、それが熟して今があると考えます。

今、仏さまの教えに出会っているのもまた、過去世において善行を積んだ縁、または教えを否定した逆縁によるものだと考えるのです。

妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十

得大勢。於意云何。爾時常不輕菩薩。豈異人乎。則我身是。若我於宿世。不受持誦誦此經。為他人說者。

不能疾得。阿耨多羅三藐三菩提。我於先佛所。受持誦誦此經。為人說故。疾得阿耨多羅三藐三菩提。得

大勢。彼時四衆。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。以瞋恚意。輕賤我故。二百億劫。常不值佛。不聞法。

不見僧。千劫於阿鼻地獄。受大苦惱。畢是罪已。復遇常不輕菩薩。教化阿耨多羅三藐三菩提。得大勢。

於汝意云何。爾時四衆。常輕是菩薩者。豈異人乎。今此会中。跋陀婆羅等。五百菩薩。師子月等。五百

比丘。尼思佛等。五百優婆塞皆於阿耨多羅三藐三菩提。

〔略〕

欲重宣此義。而說偈言

過去有佛 号威音王 神智無量 將導一切 天人龍神 所共供養 是佛滅後 法欲尽時 有一菩薩

名常不輕 時諸四衆 計著於法 不輕菩薩 往到其所 而語之言 我不輕汝 汝等行道 皆当作佛

諸人聞已 輕毀罵詈 不輕菩薩 能忍受之 其罪畢已 臨命終時 得聞此經 六根清淨 神通力故

增益壽命 復為諸人 広說是經 諸著法衆 皆蒙菩薩 教化成就 令住佛道 不輕命終 值無數佛

說是經故 得無量福 漸具功德 疾成佛道 彼時不輕 則我身是 時四部衆 著法之者 聞不輕言

汝当作佛 以是因緣 值無數佛 此会菩薩 五百之衆 并及四部 清信士女 今於我前 聽法者是

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

15日

先負 斗

旧4月18日

木曜

妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十

世世値仏

疾成仏道

「幾度生まれ変わっても仏道をひたすらに歩む」

現世のみならず過去世から未来世まで、私たちは幾度もたくさんの仏さまに出会います。

その都度、私たちの教への受け入れ方が深くなり、少しずつ仏に近づいていくのです。

仏さまの教への説き方は皆同じで、仏に成る道は一本道です。

「疾く」とは速くという意味ではなく、脇道に入ることなく、ひたすらに一つの道を歩み続けるという意味です。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

16日

仏滅 女

旧4月19日

金曜

妙法蓮華經如来神力品第二十一

せ そんなふんじん

しよざいこくど

世尊分身

所在国土

めつどししよ

とうこうせつしきよう

滅度之处

当広説此經

「地涌の菩薩の大きな誓い」

千世界の塵ほどの地涌の菩薩たちは、お釈迦さまに法華經を広める誓いを立てられました。

しかもこの娑婆世界だけではなく、お釈迦さまの分身の仏さまたちのそれぞれの世界でも教えを広めようと誓いを立てられました。

すべての世界の人々を救おうとする大きな決心を持っていなければ、真の仏弟子ではないということです。

地涌の菩薩の決意の大きさを示しています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

17

日

大安 虚

旧4月20日

土曜

妙法蓮華経如来神力品第二十一

に ぐ よう し

而供養之

「これを供養せんと欲す」

地涌の菩薩たちは、お釈迦さまが心のままに説かれた教えをいただいて、受持・読・誦・解説・書写し、供養したいと申し述べました。

「供養」とは、ご恩に報いる心の表れの行為です。お釈迦さまが教えを説いてくださったことに対する恩、私たちを救おうとお心をかけてくださることに對する恩、その大恩に報ずるための行為が供養なのです。

その供養は自分のための修行にもなるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

18日

赤口 危

旧4月21日

日曜

妙法蓮華経如来神力品第二十一

げん だい じん りき
現大神力

「法華経の偉大さを表す神力」

お釈迦さまは、滅後の未来世の弘教を託そうと
聴衆の前で十種の大神力を現されました。

「序品」や「見宝塔品」にも奇瑞や神力が現れまし
たが、その意味するところは、お釈迦さまの教え
が偉大であることを示すためです。

地涌の菩薩に弘教を託した法華経の功德の大き
さを、具体的に十種の不思議な力で表現しつつ、
さらなる覚悟を促しているようにも考えられま
す。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

19日

先勝 室

旧4月22日

月曜

妙法蓮華経如来神力品第二十一

すい

こう

ちよう

ぜつ

出広長舌

「仏さまの言葉が真実であることの証明」

十神力の一つ目。

舌を出すのは「嘘をついていない」「真実である」ということを意味しています。

お釈迦さまの舌が天まで届いたとあるのは、その教えは絶対的な真実で、永遠に変わることがないことの象徴です。

他の仏さまたちも舌を伸ばしたとあるのは、仏さまたちの御心も皆同じで、真実は一つであることを表しているのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

20

日

友引 壁

旧4月23日

火曜

妙法蓮華経如来神力品第二十一

つう しん ほう こう

通身放光

「体から光を放ち一切衆生を照らす」

十神力の二つ目。

お釈迦さまはすべての毛穴から無数の光を放ち、世界の隅々までを照らしました。

これは、真実の教えがこの上ない唯一無二のものであることを表しています。

仏さまが照らす光が私たちの身を照らし、一切衆生がお互いに教えの光で照らし合い一つになるとき、争いのない明るい世界が実現するので

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

21日

先負 奎

旧4月24日

水曜

妙法蓮華經如来神力品第二十一

いち

じ

きよう

がい

一時謦欬

「眞実を伝える咳払い」

十神力の三つ目。

「一時」とは、諸仏が法華經の眞実を証明するため
に伸ばした舌を納めた「その時」を指しています。

「謦欬」とは咳払いをすること。

咳払いは、声を発し教えることを意味します。

眞実の証明を終えた瞬間に声を発するということ
とは、まさにお釈迦さまが眞実の大事を語ろうと
していることを表しています。

その緊張感が伝わってくる場面です。

妙法蓮華經如來神力品第二十一

爾時千世界。微塵等。菩薩摩訶薩。從地涌出者。皆於佛前。一心合掌。瞻仰尊顏。而白佛言。世尊。我等於佛滅後。世尊分身。所在国土。滅度之處。當広説此經。所以者何。我等亦自。欲得是真淨大法。受持誦誦。解說書寫。而供養之。爾時世尊。於文殊師利等。無量百千萬億。旧住娑婆世界。菩薩摩訶薩。及諸比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。天。龍。夜叉。乾闥婆。阿脩羅。迦樓羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。一切衆前。現大神力。出広長舌。上至梵世。一切毛孔。放於無量。無數色光。皆悉徧照。十方世界。衆宝樹下。師子座上諸佛。亦復如是。出広長舌。放無量光。釈迦牟尼佛。及宝樹下諸佛。現神力時。滿百千歲。然後還摂舌相。一時譬歎。俱共彈指。是二音声。徧至十方。諸佛世界。地皆六種震動。其中衆生。天。龍。夜叉。乾闥婆。阿脩羅。迦樓羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。以佛神力故。皆見此娑婆世界。無量無辺。百千萬億。衆宝樹下。師子座上諸佛。及見釈迦牟尼佛。共多宝如來。在宝塔中。坐師子座。又見無量無辺。百千萬億。菩薩摩訶薩。及諸四衆。恭敬

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

22日

仏滅 龔

旧4月25日

木曜

妙法蓮華経如来神力品第二十一

く ぐ だん じ

俱共弾指

「指を弾くのは真実の誓い」

十神力の四つ目。

「弾指」とは指を丸くして弾くこと。

インドでは指を弾くのは真実の誓いです。

必ず実行するという決意の表れです。

また、指を弾くことには随喜の意味もあり、真実の教えを伝える喜びも表しています。

聴衆は授記を得たことを喜び、未来世のために弘教を託されたことにより利益を受ける後世の人々の分も喜んだのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

23日

小満

大安 胃

旧4月26日

金曜

妙法蓮華経如来神力品第二十一

ろく しゅ しん どう

六趣震動

「大地が六種に震動する」

十神力の五つ目。

大地が六種に震動すること、天地のすべてが感動したということです。

すなわち仏さまの教えがすべての衆生に行き渡り、それが自然界にも及んだということです。

そしてついには浄土が実現されるのです。

仏が法を説くときに起きる六種震動の中でも、『神力品』の六種震動は特に大きく末法流通を示すものだとい蓮聖人は述べられています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

24日

赤口 昂

旧4月27日

土曜

妙法蓮華経如来神力品第二十一

ふ けん だい え

普見大会

「十方世界を互いに相見る」

十神力の六つ目。

この娑婆世界の衆生だけではなく、十方世界のすべての衆生が虚空会上のお釈迦さまと多宝如来が並び坐るお姿を拝し歡喜しました。

十方諸仏がそれぞれの仏国土で説く教えも、この娑婆世界でお釈迦さまが説かれる教えも同じであり、未来世においても大いなる利益が受けられることを知り、この会座を囲んでいることを皆で喜んだのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

25日

先勝 畢

旧4月28日

日曜

妙法蓮華経如来神力品第二十一

くう ちゅう しょう しょう

空中唱声

「天上界からの声が響き渡る」

十神力の七つ目。

天上界から十方世界の衆生に向って、「娑婆世界においてお釈迦さまが妙法蓮華経を説くので、心から深く随喜し、礼拝し供養せよ」との声が響き渡りました。

苦に満ちた娑婆世界にも、未来には妙法蓮華経が流布することを表しています。

十方世界の衆生も娑婆世界を見習って、真実の教えを弘めようと思いを一つにしました。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

26日

友引 鶯

旧4月29日

月曜

妙法蓮華經如来神力品第二十一

咸皆歸命

げん かい き みよう

「一切衆生が悉くお釈迦さまに帰依すること」

十神力の八つ目。

空中の声を聞いて十方世界の一切衆生も悉くお釈迦さまに帰依しました。

未来にこの教法を受持する人々ですべての国土が充滿することを表しています。

一切衆生が法華經に随喜し唱えた「南無釈迦牟尼仏」との帰命の語の中には「南無妙法蓮華經」が具わっているのだと、日蓮聖人は末法法華広布を説かれています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

27

日

大安 参

旧5月1日

火曜

妙法蓮華経如来神力品第二十一

よう

さん

しよ

もつ

遙散諸物

「供養の品が諸仏を覆う」

十神力の九つ目。

十方世界から娑婆世界のお釈迦さまに供養する
珍妙なる諸物が、雲のように集まり諸仏の上を
覆いました。

仏さまに帰依して物を捧げるということは、皆
が仏に成りたいという思いの表れです。

未来において仏に成るための行法は、法華経に
基づくものであると皆が自覚し、供養の品を捧
げたのです。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

28日

赤口 井

旧5月2日

水曜

妙法蓮華經如来神力品第二十一

通つう一いち仏ぶつ土ど

「十方世界と娑婆世界が一体となること」

十神力の十個目。

十方世界と娑婆世界が一体となること。

未来において、すべての世界の衆生が仏と成れば、すべての世界が浄土となるのです。

皆が真実を求めて、それぞれの立場において努め精進し、未来の浄土の顕現を目指しましょう。十神力は未来世の人々のために説かれたものでもあります。末法の世においてもお釈迦さま在世の時と同じ利益を受けることを示しています。

妙法蓮華經如來神力品第二十一

一時警歎。俱共彈指。是二音声。徧至十方。諸佛世界。地皆六種震動。其中衆生。天。龍。夜叉。乾闥婆。阿脩羅。迦樓羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。以佛神力故。皆見此娑婆世界。無量無邊。百千萬億。衆寶樹下。師子座上諸佛。及見釈迦牟尼佛。共多寶如來。在寶塔中。坐師子座。又見無量無邊。百千萬億。菩薩摩訶薩。及諸四衆。恭敬圍繞。釈迦牟尼佛。既見是已。皆大歡喜。得未曾有。即時諸天。於虛空中。高声唱言。過此無量無邊。百千萬億。阿僧祇世界。有國名娑婆。是中有佛。名釈迦牟尼。今為諸菩薩摩訶薩。說大乘經。名妙法蓮華。教菩薩法。佛所護念。汝等當深心隨喜。亦當禮拜供養。釈迦牟尼佛。彼諸衆生。聞虛空中声已。合掌向娑婆世界。作如是言。南無釈迦牟尼佛。南無釈迦牟尼佛。以種種華香。瓔珞幡蓋。及諸嚴身之具。珍寶妙物。皆共遙散。娑婆世界。所散諸物。從十方來。譬如雲集。變成寶帳。徧覆此間。諸佛之上。于時十方世界。通達無礙。如一佛土。爾時佛告。上行等菩薩大衆。諸佛神力。如是無量無邊。不可思議。若我以是神力。於無量無邊。百

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

29日

先勝 鬼

旧5月3日

木曜

妙法蓮華経如来神力品第二十一

付嘱^{ふぞく}①

「教えを授け、弘教を託す儀式」

「付」は授け与えること、「嘱」は託し任せること。
「付嘱」は、お釈迦さまが入滅後の衆生救済のため重要な教えを授け、弘教を託す儀式です。
『見宝塔品』にてお釈迦さまは滅後の弘教者を募り、『勸持品』にて菩薩たちが弘教の誓言をしますが、『従地涌出品』にてお釈迦さまはそれを謝絶し、その後に地涌の菩薩が出現します。
そして『如来寿量品』にて久遠の過去から地涌の菩薩を教化してきたことを説かれました。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

30日

友引 柳

旧5月4日

金曜

妙法蓮華經如来神力品第二十一

ふ ぞく

付嘱②

「教えを授け、弘教を託す儀式」

『如来神力品』に至り、お釈迦さまは地涌の菩薩に「四句要法」を説き、末法の弘通を付属します。特別に末法の衆生救済を地涌の菩薩に託したので「別付嘱」といいます。

『嘱累品』では他の菩薩たちにも法華經の弘通を付嘱します。これを「総付嘱」といいます。

『宝塔品』より起こり、『寿量品』にて顕し、『神力品』『嘱累品』に竟る(おわる)一連の付嘱の儀式を「起顕竟(きけんきょう)の法門」といいます。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

5月

31日

先負 星

旧5月5日

土曜

妙法蓮華経如来神力品第二十一

四句要法

「法華経の肝要を結んだ四句」

お釈迦さまは地涌の菩薩に、法華経の肝要を結んだ四句の要法を地涌の菩薩に付嘱されました。

①如来一切 所有之法…仏さまのすべての教え

②如来一切 自在神力…仏さまの救いの力

③如来一切 秘要之蔵…仏さまのすべての智慧

④如来一切 甚深之事…仏さまのすべての実践

方便の教えでは一部しか明かされていなかった要法が、法華経にはすべて説かれているので、一心に受持し弘教に努めよと託されたのです。

妙法蓮華經如來神力品第二十一

爾時佛告。上行等菩薩大衆。諸佛神力。如是無量無辺。不可思議。若我以是神力。於無量無辺。百千萬億。阿僧祇劫。為囑累故。說此經功德。猶不能盡。以要言之。如來一切所有之法。如來一切自在神力。如來一切秘要之藏。如來一切甚深之事。皆於此經。宣示顯說。是故汝等。於如來滅後。應當一心。受持誦誦。解說書寫。如說修行。所在国土。若有受持誦誦。解說書寫。如說修行。若經卷所住之處。若於園中。若於林中。若於樹下。若於僧坊。若白衣舍。若在殿堂。若山谷曠野。是中皆応。起塔供養。所以者何。當知是處。即是道場。諸佛於此。得阿耨多羅三藐三菩提。諸佛於此。轉於法輪。諸佛於此。而般涅槃。爾時世尊。欲重宣此義。而說偈言